

## 慢性の鼻詰まりは辛夷清肺湯などで

**Q** 十歳の長男。鼻詰まりがひどく、よく飲み込んで

いるようです。鼻をかませると、膿（うみ）のような鼻汁が出ます。耳鼻科では鼻茸（たけ）と慢性副鼻腔（ふくびくこ）炎と診断され手術を勧められています。私自身、慢性副鼻腔炎の手術を三回も受けてあまり改善がみられなかったので悩んでいます。

めることに由来している。

また若年者の慢性副鼻腔炎は、頭重感やうなじのこわばりがあつて集中力が欠けると訴えることが多い。この場合は葛根湯（かつこんとう）が効く。葛根湯は風邪薬と考えられているが、江戸時代の書物に「脳漏」（膿性鼻汁）に対して葛根湯の作用が非常に優れていることが記されている。

**A** 鼻茸を伴う鼻詰まりなどにもよく効く漢方薬があるが、一般の耳鼻科医にはほとんど知られていない。それは辛夷清肺湯（しんいせいはいとう）という漢方薬である。辛夷はモクレンまたはコブシの花のつぼみ。漢方では鼻も呼吸器の一部で広い意味の肺の機能と考えており、清肺湯という名は赤くはれた鼻茸の熱を清

一方、質問者のような大人の慢性副鼻腔炎には桂姜棗黄辛附湯（けいきょうそうおうしんぶとう）がよく使われる。胃腸が弱く頭痛・頭重感を伴うものには半夏白朮天麻湯（はんげびゃくじゅつてんまつとう）がよい。千金内托散（せんきんないたくさん）という薬もある。手術の前に試みるとよい漢方処方は少なくない。